

## 記者発表資料



令和4年3月31日  
名取川・阿武隈川下流等流域治水協議会

### あらゆる関係者による水害対策を、さらに推進するために 名取川水系において「流域治水プロジェクト」を更新しました。 ～東北最大の都市河川整備と歴史を活かしたまちづくりの総合的な流域治水対策～

- 昨今の豪雨災害の激甚化・頻発化を受け、流域を俯瞰し、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村等）が協働して取り組む治水対策「流域治水」への転換が重要であるとの認識に基づいた、名取川・阿武隈川下流等流域治水協議会での議論を通じ、流域全体で実施すべき対策の全体像を「名取川水系流域治水プロジェクト」としてとりまとめ、令和3年3月に公表いたしました。
- 今回、グリーンインフラの取り組みや水災害リスク情報、指標を用いた取り組み状況を加えるなどプロジェクトの更なる充実を図りましたので、プロジェクトを更新・公表いたします。
- 「名取川水系流域治水プロジェクト」では、国、県、市町等が連携し、河道掘削、堤防強化等を着実に実施していく他、浸水リスクを考慮した立地適正化計画の作成や防災ソフト対策などを組み合わせた流域治水を進めて参ります。

※詳細については、別紙1（名取川水系流域治水プロジェクト）又は下記URLよりをご覧ください。  
[https://www.thr.mlit.go.jp/sendai/kasen\\_kaigan/kaigi/chisui/index.html](https://www.thr.mlit.go.jp/sendai/kasen_kaigan/kaigi/chisui/index.html)

《発表記者會》宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会

#### 問合せ先

<名取川・阿武隈川下流等流域治水協議会>  
事務局 国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所 電話（代表）022-248-4131  
副所長（河川） 平舘 淳一  
建設専門官 川口 高雄  
宮城県 土木部 河川課 電話（直通）022-211-3176  
総合治水対策専門監 鈴木 善友

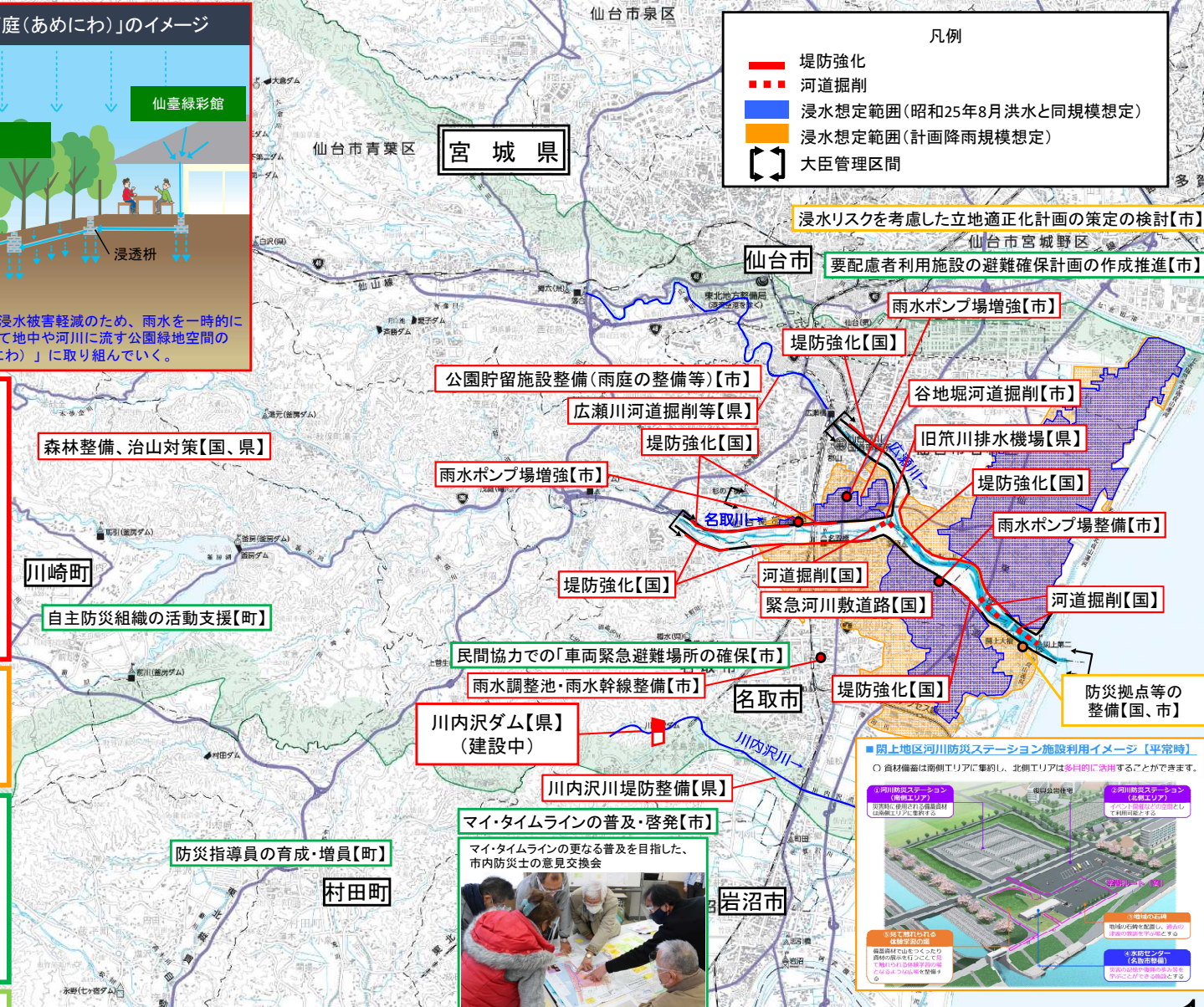
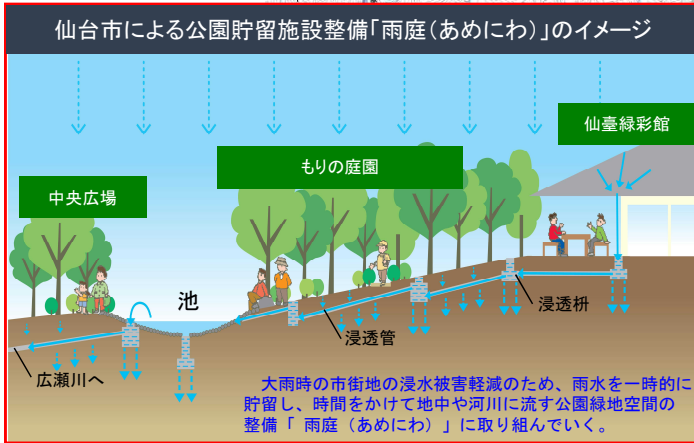


# 名取川水系流域治水プロジェクト【位置図】

別紙1

～東北最大の都市河川整備と歴史を活かしたまちづくりの総合的な流域治水対策～

○ 令和元年東日本台風により各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、名取川水系においては、都市部の土地利用特性を考慮し、河川整備に併せて、公園貯留施設整備などの対策を組み合わせた流域治水の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和25年8月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



## ■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 河川区域での対策
  - ・河道掘削、堤防強化、緊急河川敷道路
  - ・川内沢ダム建設
  - ・利水ダム等7ダムにおける事前放流等の実施・体制構築 (関係者: 国、宮城県、東北電力(株)、沿川市町、土地改良区など)
- 集水域での対策
  - ・排水機場整備
  - ・雨水ポンプ場整備、雨水調整池、雨水幹線
  - ・公園貯留施設整備
  - ・森林整備・治山対策 等

## ■ 被害対象を減少させるための対策

- 氾濫域での対策
  - ・防災拠点等の整備
  - ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の策定の検討 等

## ■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 氾濫域での対策
  - ・洪水浸水想定区域図の作成・見直し
  - ・要配慮者利用施設の避難確保計画策定及び訓練促進
  - ・「マイ・タイムライン」作成の普及促進
  - ・自主防災組織の設置促進と人材育成
  - ・水害リスク空白域の解消 等

## ■ グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ

※対策事業の代表箇所を旗揚げしている。 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

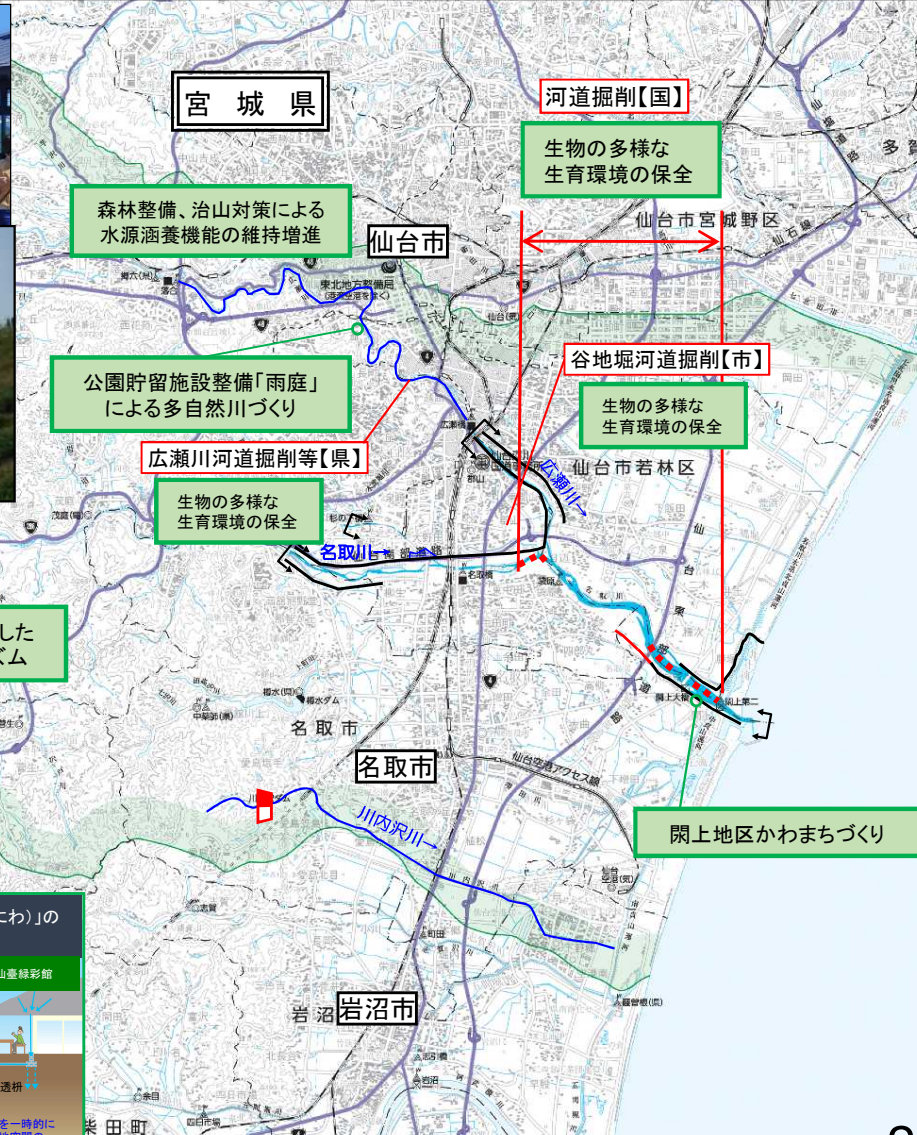
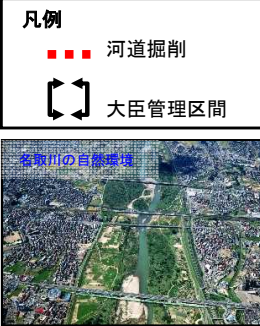
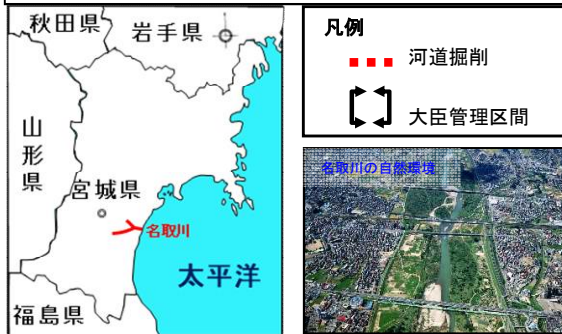


# 名取川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～東北最大の都市河川整備と歴史を活かしたまちづくりの総合的な流域治水対策～

## ■グリーンインフラの取り組み 『東北最大の都市河川が有する多様な機能を活かした環境まちづくり』

○名取川は、宮城県のほぼ中央部に位置し、東西方向に長い扇状地の流域で、人口100万人を有する仙台市、仙台空港がある名取市を流下する都市河川で、河川空間は都市の憩いの、コミュニティ、スポーツの場など幅広く活用されている。  
 ○名取市閑上地区のかまちづくりをはじめ、流域の拠点となる箇所での取り組みを進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を流域全体で促進する。



●健全なる水循環系の確保  
 ・森林整備、治山対策による水源涵養機能の維持増進

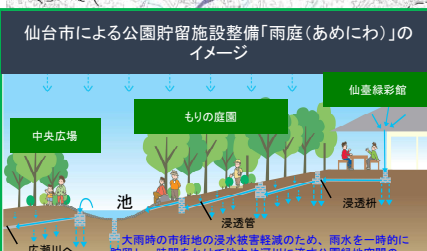
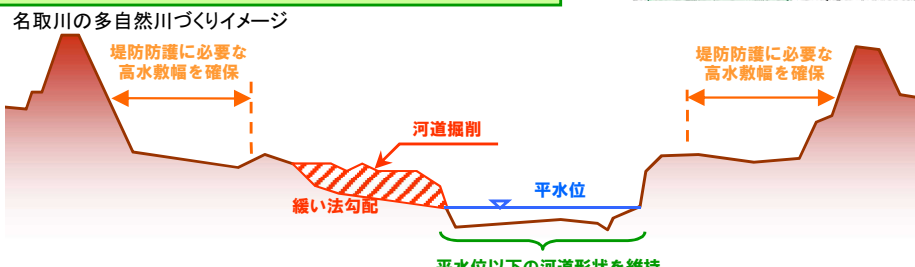
●治水対策における多自然川づくり  
 ・生物の多様な生育環境の保全  
 ・公園貯留施設整備「雨庭」による多自然川づくり

●魅力ある水辺空間・賑わい創出  
 ・閑上地区かまちづくり

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み  
 ・小中学校などにおける河川環境学習  
 ・釜房ダムを活用したインフラツーリズム



【全域に係わる取組】  
 ・動植物の生息・生育・繁殖環境の保全  
 ・水質の保全  
 ・良好な景観の保全  
 ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある

# 名取川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～東北最大の都市河川整備と歴史を活かしたまちづくりの総合的な流域治水対策～

- 名取川では、本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
  - 【短期】 仙台・名取市街地等での重大災害の発生を未然に防ぐため、直轄管理区間で水位低下を目的とした河道掘削等を主に実施するとともに、防災拠点等の整備を実施し防災体制等の強化を図る。
  - 【中期】 川内沢川の地域を洪水から守るため、川内沢ダム建設を推進するとともに、「マイ・タイムライン」作成の普及促進等、避難体制等の強化を図る。
  - 【中長期】 名取川及び広瀬川の浸水被害を防ぐため、堤防強化や河道掘削等を実施するとともに、内水被害軽減対策（雨水貯留施設の整備等）を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

## 【ロードマップ】 ※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	仙台河川国道事務所、宮城県 仙台市	大臣管理区間の河道掘削を実施 (仙台河川国道事務所)		
	堤防強化	仙台河川国道事務所、宮城県	県管理区間の河道掘削を実施 (宮城県)		
	川内沢ダム建設	宮城県	ダム本体完成(宮城県)		
	雨水貯留施設等の整備	仙台市、名取市 等	公園貯留施設整備(仙台市)		
	森林整備・治山対策	東北森林管理局、宮城県、 森林整備センター	幹線函渠と貯留設備の整備(名取市)		
被害対象を減少させるための対策	防災拠点等の整備	仙台河川国道事務所、名取市	閑上地区河川防災ステーション等整備 (仙台河川国道事務所、名取市)		
	浸水リスクを考慮した立地適正化計画の策定の検討	仙台市	立地適正化計画の策定の検討(仙台市)		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	要配慮者利用施設の避難確保計画策定及び訓練促進	仙台河川国道事務所、宮城県、 流域市町 等	避難確保計画作成推進(市町)		
	「マイ・タイムライン」作成の普及促進	仙台河川国道事務所、宮城県、 流域市町 等	作成支援、講習会等の実施(市町)		
グリーンインフラの取組	閑上地区かわまちづくり	仙台河川国道事務所、名取市			
	生物の多様な生育環境の保全	仙台河川国道事務所、宮城県、 仙台市			
	公園貯留施設整備「雨庭」	仙台市	【事業費（R2年度以降の残事業費）】		
	森林整備、治山対策による水源涵養機能の維持増進	東北森林管理局、宮城県、 森林整備センター			
	小中学校などにおける河川環境学習	仙台河川国道事務所			
	釜房ダムを活用したインフラツーリズム	仙台河川国道事務所			

気候変動を踏まえた  
更なる対策を推進

■ 河川対策  
 全体事業費 約200億円 ※1  
 対策内容 河道掘削、堤防強化、緊急河川敷道路  
 川内沢ダム建設 等  
 ■ 下水道対策  
 全体事業費 約220億円 ※2  
 対策内容 雨水ポンプ場整備、雨水調整池、  
 雨水幹線 等

※1：直轄及び各圏域の河川整備計画の残事業費を記載  
 ※2：各市町における下水道事業計画の残事業費を記載



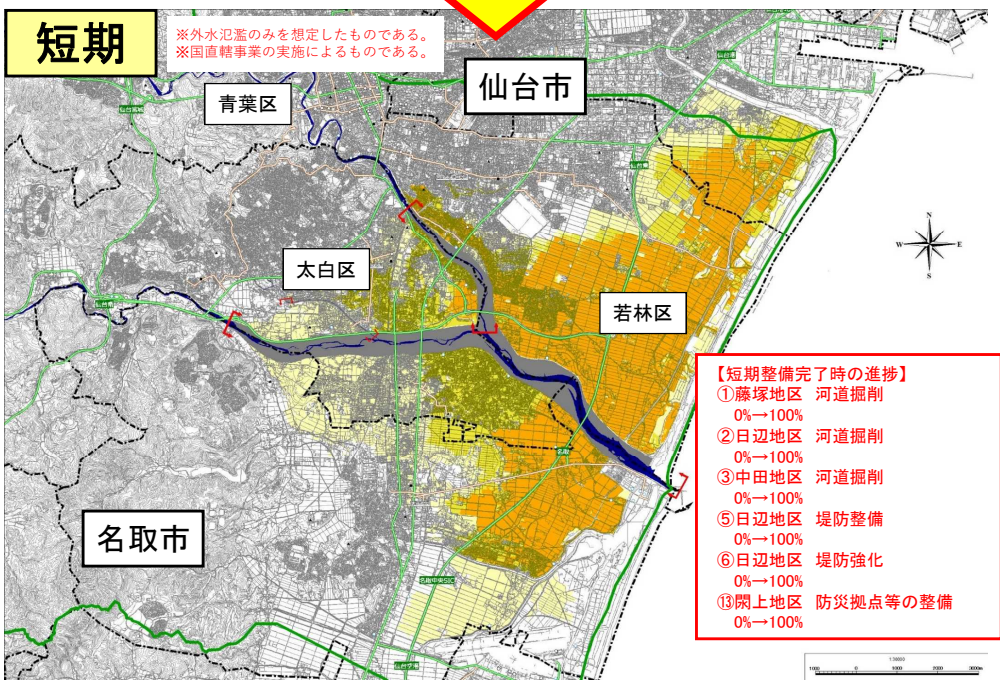
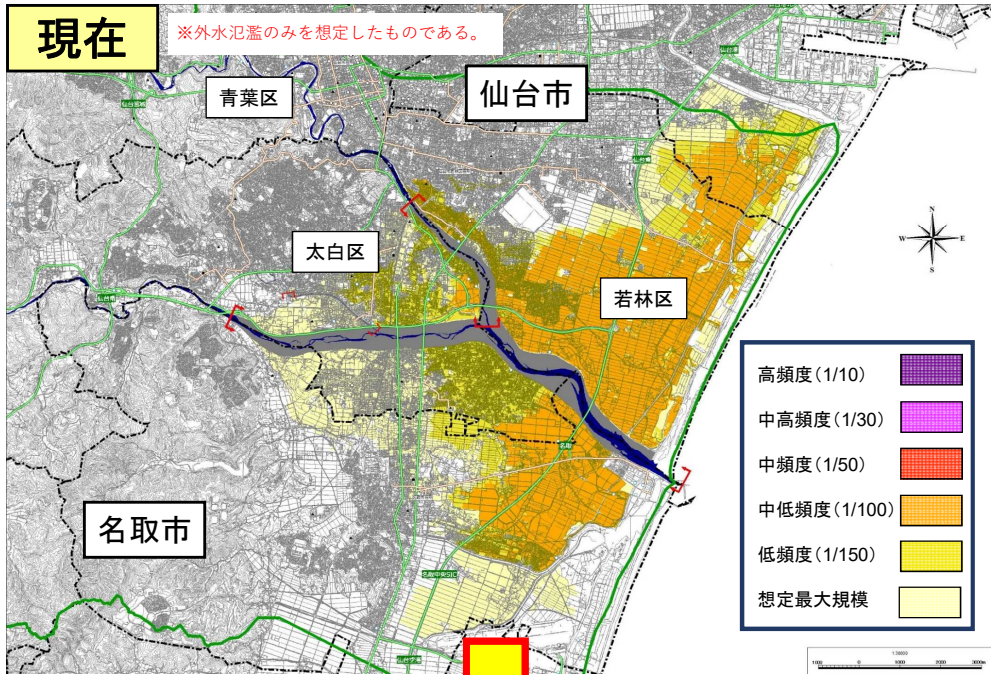
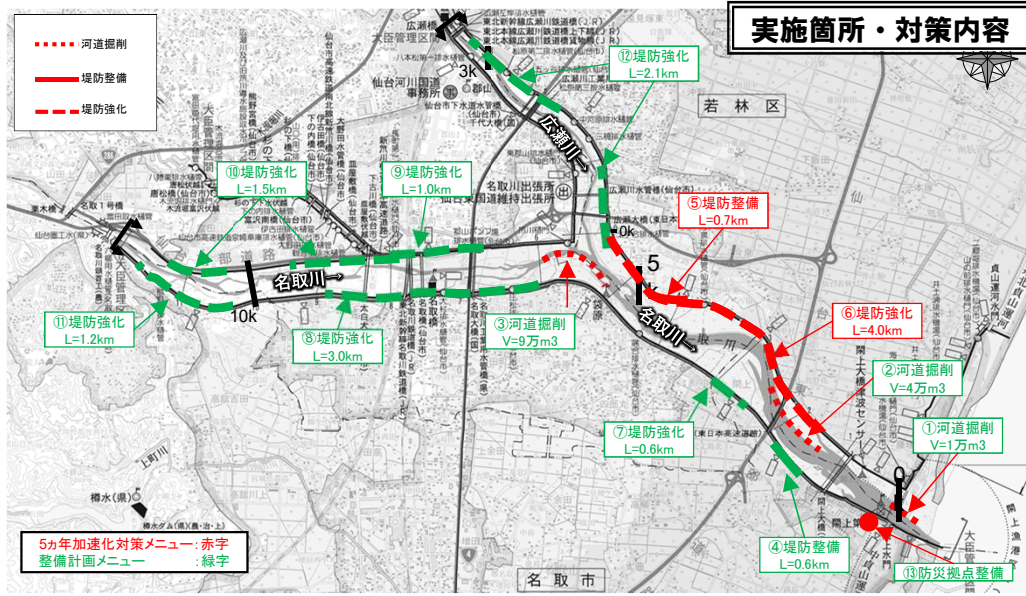
# 名取川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～東北最大の都市河川整備と歴史を活かしたまちづくりの総合的な流域治水対策～

進捗と効果(R4.3版)

短期整備(5か年加速化対策)効果: 河川整備率 約84%→約93%

○日辺地区の堤防強化事業がR7に完了することで、背後にある東日本大震災復興事業における防災集団移転先を含めた地域の浸水リスクが軽減する。



- 【短期整備完了時の進捗】
- ①藤塚地区 河川掘削 0%→100%
  - ②日辺地区 河川掘削 0%→100%
  - ③中田地区 河川掘削 0%→100%
  - ⑤日辺地区 堤防整備 0%→100%
  - ⑥日辺地区 堤防強化 0%→100%
  - ⑬閑上地区 防災拠点等の整備 0%→100%

区分	対策内容	区間	工程		
			短期(R2～R7年)	中期(R8～R12年)	中長期(R13～R20年)
氾濫をできるだけ防く・減らすための対策	河川掘削 48%→100%	①地区(藤塚)	100% R3		
		②地区(日辺)	100%		
		③地区(中田)	100%		
	堤防整備 65%→100%	④地区(閑上(上))		100%	
		⑤地区(日辺)	100%		
		⑥地区(日辺)	100%		
		⑦地区(閑上(上))		100%	
	堤防強化 25%→100%	⑧地区(中田(上河原))		100%	
		⑨地区(郡山)			100%
		⑩地区(雷田)			100%
総合対策を減少させるための対策	防災拠点等の整備	⑪地区(柳野堂)			100%
		⑫地区(若林)			100%
		⑬閑上地区	100%		

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

※浸水範囲は、今後の調査・検討や対策内容等により変更となる場合がある。  
※日辺地区の整備効果は、中頻度から中低頻度の間となっているため、上記図に表現されていない



# 名取川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）



整備率：93%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



1市町村

（令和3年度末時点）

流出抑制対策の実施



7施設

（令和2年度実施分）

山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策



治山対策等の実施箇所 0箇所  
（令和3年度実施分）

砂防関係施設の整備数 0施設  
（令和3年度完成分）

立地適正化計画における防災指針の作成



0市町村

（令和3年12月末時点）

避難のためのハザード情報の整備



洪水浸水想定区域 5河川  
（令和3年12月末時点）

内水浸水想定区域 0団体  
（令和3年11月末時点）

高齢者等避難の実効性の確保



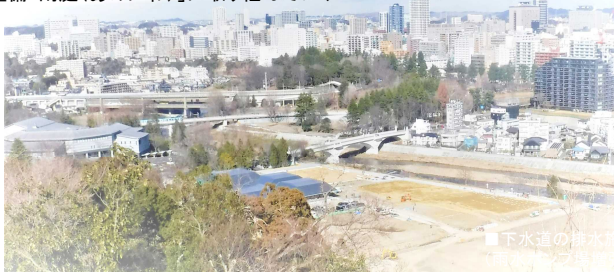
避難確保計画 洪水 794施設  
土砂 109施設  
（令和3年9月末時点）

個別避難計画 集計中  
（令和4年1月1日時点）

## 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

### ■雨庭の整備（仙台市）

大雨時の市街地の浸水被害軽減のため、雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地中や河川に流す公園緑地空間の整備「雨庭（あめにわ）」に取り組んでいく



### ■準用河川谷地掘改修事業（仙台市）

整備前（旧荒川合流部）

整備後



下水道の排水施設（雨水ポンプ場増強）  
郡山ポンプ場

### ■雨水貯留施設整備（名取市）

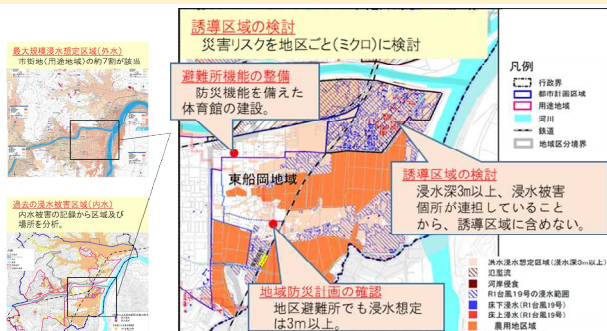
・県道仙台名取線（旧国道4号）から国道4号バイパスまでの約440m区間における雨水幹線の整備、下流側既設水路および接続先の承水路（放流制限量有）の流下能力が保たれるよう調整池（増田調整池）を整備し、未整備区域である29.7haの浸水軽減を図るものである  
・平成29年度より貯留施設の整備に着手している



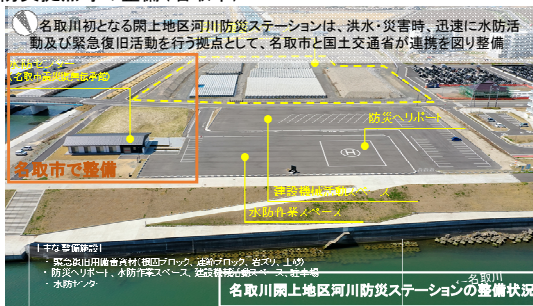
## 被害対象を減少させるための対策

- ・同県内の他水系流域市町村において、令和4年中に立地適正化計画の公表予定（柴田町）
- ・防災に対する方針等をまとめた防災指針を策定し、災害リスクを踏まえた誘導区域を検討中（柴田町）
- ・名取川水系においても、引き続き流域治水における防災まちづくりを推進するため密接に連携を図っていく

最大規模での浸水被害と過去の浸水（内水）被害の両面で災害リスクを詳細に分析し、地域防災計画の検証を行いながら、誘導区域を設定し、安全・安心で快適なコンパクトな市街地の誘導・形成を目指す。



### ■防災拠点等の整備（名取市）



## 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

- ・青根地区周辺に雨量観測所がないことから、自主防災組織より町に対し雨量計の設置（川崎町）
- ・これにより、気象庁の警戒レベル発表を待つことなく自主防災組織による自主避難情報などが発信され、加えて大雨発生の前に雨水流出場所への土嚢設置、消防団による警戒活動など住民主体の防災体制が確立されている（川崎町）

## 川崎町（総務課）の“自主防災モデルケース”

### 雨量計を設置

- 雨量データ測定開始！  
1時間単位で記録。

- 雨量データ公開開始！  
「青根区会」で検索  
トップページ「コロナ」の下  
のボタン

<https://aonekukai.jimdo.free.com/>

- 青根緊急連絡システムでも活用開始。



## 自主防災組織による地域住民への情報発信

■2020/9/26 ■緊急連絡システム発信の内容 ※文面一部要約

- 第1報：18時50分 川崎町土砂災害警戒レベル3発令。ただし笹谷方面。青根地域はレベル2。青根地域の雨量は、本日9時から19時までの10時間で12.2mm。グリーンズ/八南地域一部で側溝溢れと道路冠水。
- 第2報：19時27分 川崎町大雨警報発表。河川や側溝、道路の冠水に十分注意を。21時頃まで雨が強く降る見込み。19時20分 蔵王町土砂災害警戒レベル3発令。青根温泉から遠刈田温泉までの国道457号線はできるだけ避けましょう。
- 第3報：21時27分 気象警報全て解除。大雨注意報、洪水注意報継続中。引き続き、青根温泉から遠刈田への国道457号線は、明日朝までできるだけ避けるようにしてください。

<お知らせ>  
25日に川崎町総務課より雨量計が届き、青根地域の1時間ごとの雨量が観測できるようになりました。今後、危険の判断として活用できるように、しばらくデータを集めて研究します。